



交通のご案内

- 多摩モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、「高松」駅下車、徒歩10分
- 立川バス利用の場合
JR立川駅北口②番乗り場乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分
JR立川駅北口①番乗り場乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分
JR立川駅北口②番乗り場乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分
- 徒歩の場合
JR立川駅下車、徒歩約25分



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3 TEL:050-5533-2900 <https://www.nijl.ac.jp/>

S O K E N D A I

日本文学研究コース

総合研究大学院大学 先端学術院 先端学術専攻

— 二〇二五 —



目次

館長あいさつ・コース長あいさつ	2
コースの特色	3
教員紹介	5
授業科目一覧	8
特色ある授業	9
さまざまな学びと発表の場	9
入学者選抜試験について	10
学位の取得について	11
修士生の進路	11
学位論文リスト	12
在学生の声	13
学位取得者からのメッセージ	14
総合研究大学院大学について	15
よくある質問	16
国文学研究資料館の概要	17

日本文学研究コースは、国文学研究資料館を基盤機関とする、博士課程後期のみからなる大学院です。国文学研究資料館は、原本資料調査に基づき、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関であり、本コースでは、同館が創設以来、半世紀にわたって蓄積してきた膨大な文化資源と研究ネットワークを活用しながら、日本文学及びその周辺分野における深い専門知識と関連資料の調査技術・総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行います。

具体的には、文化資源のうち文献を主とした二次資料を研究対象とし、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等の修得を目指します。論理的な思考能力や文章表現力、独創的かつ学際的な視点を育むとともに、周辺領域の課題にも取り組み、国内外で活躍できる広い視野を持つ研究者を育成します。

◇大学共同利用機関とは

国内外の大学研究者が共同で利用でき、各種の高度で大型の研究施設や実験設備、貴重な学術資料等を保有する、日本が世界に誇るトップレベルの研究機関です。研究活動の多くは非常に基礎的であるとともに大規模な施設等を要し、莫大な投資を必要とします。そのため、予算や研究効率等の面から大規模な研究活動に必要な人材や研究資金等を重点的に投入し、独創的かつ最先端の研究を行っています。

館長あいさつ



国文学研究資料館長

渡部 泰明

国文学研究資料館は、1972年の発足以来、明治期を含めた国内外の日本文学に関する資料の調査・収集、マイクロフィルム及びデジタル画像による公開を行いつつ、世界の中での日本文学研究の拠点として、事業を進めてきました。2008年に立川市に移転し、広いスペースと行き届いた閲覧機能を持つ、一層充実した環境になりました。

創設以来取り組んできた収集事業に加え、当館では2014年度から2023年度まで「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（歴史的典籍NW事業）の10カ年事業に取り組みました。人文系領域にとどまらず、あらゆる分野の古典籍のデジタル画像を収集し、データベースを構築するという計画です。2024年度からは本事業の後継計画である「データ駆動による課題解決型人文学の創成」事業を開始しました。日本国内外の日本研究者の研究拠点として、画像データを活用した共同研究も進めています。

総合研究大学院大学文化科学研究科に日本文学研究専攻が設置され、国文学研究資料館がその基盤機関となったのは2003年のことでした。2023年度から、同専攻は日本文学研究コースとなりましたが、教育・研究のための環境に大きな変更はありません。豊富に蓄積された研究書や雑誌類、原典・画像資料を駆使して研究を行えるという点において、国文学研究資料館ほど恵まれた環境は無いでしょう。多彩な教員たちの指導のもと本コースで学び、学位を取得した修了者には、すぐれた業績をあげて、研究者として活躍している人が少なくありません。こうした優秀な先輩達に続く、日本文学研究を志す方々をお待ちしております。

コース長あいさつ



日本文学研究コース長

西村 慎太郎

日本文学研究コースは人間文化研究機構国文学研究資料館を基盤とし、2003年に総合研究大学院大学の一専攻として発足しました。国文学研究資料館の前身となる文部省史料館は1951年に、国文学研究資料館は1972年に創設され、以来、長きにわたって国内外の研究機関・研究者と連携し、国内各地の日本文学等にかかわる様々な分野の古典籍あるいは古文書を大規模に集積し、日本文学をはじめとする諸分野の研究者・市民の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進してきました。国際日本文学研究集会をはじめとした多くの研究会、日本古典籍講習会やアーカイブズ・カレッジなど実務を担う人材育成のセミナーを開催し、近年では異分野と融合した研究の推進として、文部科学省大規模学術プラットフォーム促進事業に取り組みしています。こうした先導的な研究・事業と本コースは連携した修学の場を提供しており、多くの修了生が研究者として活躍しています。

本コースには日本文学・歴史学・アーカイブズ学・情報学等の教員がおり、学生の研究を大きく進展させるため、一緒に研究の伴走をしています。資料の読解・分析・解釈といった研究の基礎を学び、一人前の研究者として博士号取得ができるよう最善の環境を提供しています。本コースで学び、研究することによって、人文科学がどのように現代社会の諸課題に解決し得るか、はっきり分かるものと思えます。

多くの疑問や課題をもってください。本コースで学び、研究することでその問いを解決し、また新たな疑問や課題が生じるという好奇心のループは皆さんの人生を豊かなものにするでしょう。新たな研究視座を獲得することを願います。

3つの特徴

経済的支援

- 国内外の現地調査、学芸発表等の研究活動の旅費等の支援
- リサーチアシスタント (RA) への積極的な雇用
- 館内での資料複写が無料 (上限あり)
- 希望する図書を購入・院生図書室への配架

複数指導体制

- 17名の教員が広範な教育研究分野から学生をサポート
- 学生一人に対して3名の教員 (主任指導教員1名、副指導教員2名) によるきめこまやかな論文指導

充実した教育研究環境

- 国文学研究資料館の膨大な資料を活用した研究
- 院生室、講義室、談話室等学生のための施設が充実

複数指導体制

日本文学研究コースには17名の教員がおり、それぞれの専門を活かした授業科目を担当しています。研究基礎論では、全ての教員が専門性に即した最新の、また大学院生にとって基本となる内容を講義しています。学生一人に主任指導教員1名、副指導教員2名の計3名できめこまやかな論文指導を行っています。

経済的支援

- 学生の研究活動を支援するため、さまざまな制度があります。代表的なものをご紹介します。
- 研究活動の旅費等の支援
研究活動の一環としての資料調査や、学会に出席するための旅費等を補助しています。
 - 書籍購入
院生図書室に配架する書籍の購入支援を行っています。
 - 資料複写
館内専用の複写機を使用した複写は無料です (上限あり)。
 - ノートパソコンの貸与等
在学中、ノートパソコンを一人一台貸与しています。また、院生室には、スキャナー・製本機などもあり、資料整理等がしやすい環境が整っています。
 - リサーチアシスタント (RA) への積極的な雇用
日本文学研究コースの基盤機関である国文学研究資料館のリサーチアシスタント制度に基づいて、学生は研究プロジェクト等の研究補助者として補助業務に従事することができます。この業務の対価として給与が支払われます。

充実した教育研究環境

国文学研究資料館には創設以来半世紀にわたって集積された、重要文化財等原本2万点、古籍籍や近代文献の収集マイクロ資料20万点、歴史史料512件 (52万点)、活字資料20万冊があります。

立川の広々とした設備には、院生図書室・談話室なども整い、学生はのびのびと研究生活を謳歌しています。



院生室



院生図書室



紙焼本の書棚



書庫

教員紹介

日本文学研究コースの各教員の専門分野は次のとおりです。本コースに入学を希望する方は、出願前に、入試説明会等の機会を活用し、指導を希望する教員へ入学後の研究計画や研究内容等について早めに相談してください。

教授 ● 入口 敦志

RIKUCHI Atsushi

江戸時代の学芸のあり方を中心として研究している。講義では、東アジアの出版史の中に日本を位置づけ、その考察から日本文化の特徴を明らかにすることを試みている。著書に『武家権力と文学―柳営連歌』『帝鑑図説』（ぺりかん社、2013）、『漢字・カタカナ・ひらがな―表記の思想』（平凡社、2016）がある。

教授 ● 岡崎 真紀子

OKAZAKI Makiko

平安時代から室町時代までの和歌と歌学および連歌を主な研究領域としている。和歌や注釈書類を分析するとともに、仏教の言説・思想と文学との相関も視野に入れて、和語による文学表現の特性と、それを生み出す人間の思考のあり方について考察している。著書に『やまとことは表現論 源俊賴へ』（笠間書院、2008）、『発心和歌集 極楽願往生和歌 新注』（青簡舎、2017）がある。

教授 ● 神作 研一

KANSAKU Ken'ichi

近世文学の種々相を、雅俗と和漢、出版文化史、明清文化の受容等に配慮しながら考察。特に和歌史・芸学史研究を専攻している。著書に『近世和歌史の研究』（角川学芸出版、2013）、『江戸の通信添削―美濃加治田平井家のものがたり』（平凡社ブックレット、2025）などがある。

教授 ● 木越 俊介

KIKOSHI Shunsuke

江戸時代中後期の小説、特に「読本」と呼ばれるジャンルを中心に、「人情本」などにも興味を広げて研究している。さらに、書籍の出版・流通や当時の版權などについても調査している。著書に『江戸・大坂の出版流通と読本・人情本』（清文堂出版、2013）、『霧旅漫録 付 蓑笠雨談』（平凡社、2022）、『知と奇りめぐる近世地誌 名所図会と諸国奇談』（平凡社、2023）がある。

教授 ● 齋藤 真麻理

SAITO Maori

室町時代から江戸時代前期の文芸、とくに物語を主な対象とし、説話、絵画、芸能、中国明代の文物等との連関や文学圏域の検証を通して、中近世日本の学芸の諸相を研究している。著書に『一乗拾玉抄の研究』（臨川書店、1998）、『異類の歌合 室町の機智と学芸』（吉川弘文館、2014）、『妖怪たちの秘密基地―つくもがみの時空』（平凡社、2022）、編者に『戯画図巻』の世界―競う神仏遊ぶ賢人（KADOKAWA、2024）などがある。

教授 ● ダヴァン・デイ・デイ

DAVIN Dieter

室町時代から近世にかけての臨濟宗の思想的な変貌と社会への普及を研究している。所謂五山派と異色の禅風を放った大燈派（主には大徳寺と妙心寺）の新しい社会層との交流を中心に検討しているが、近世に流行った仮名法語などの意義も視野に入れる。著書に『無門関』の出世双六―帰化した禅の聖典（平凡社、2020）がある。

教授 ● 中西 智子

NAKANISHI Satoko

『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語文学を主な対象に、その生成と受容、表現的連関、和歌の引用に関する検討を行っている。著書に『源氏物語 引用とゆらぎ』（新典社、2019）、『紫式部の「ことば」たち 源氏物語と引用のコーラージュ』（平凡社、2024）、共編者に『藤原彰子の文化圏と文学世界』（武蔵野書院、2018）がある。

教授 ● 西村 慎太郎

NSHIVURA Shinro

歴史学、主に日本近世史が専門。近年では被災地や人口減少地域の歴史資料保全と歴史・文化の継承を自治体や住民と進めている。著書は『近世朝廷社会と地下官人』（吉川弘文館、2008）、『宮中のシェフ、鶴をさばく』（吉川弘文館、2012）、『生実藩』現代書館、2017）、『大字 誌浪江町権現堂』のススメ1・2（いりの舎、2021・2023）、『そもそもお公家さんってなに？』（現代書館、2023）、『古文書解読事始め 福島県大熊町の古文書で学ぶくすし字入門』（番山房、2024、共編著）など。

教授 ● 藤實 久美子

FUJIZANE Kumiko

日本近世・幕末維新期の書籍史料研究およびアーカイブズ学を専門とする。実用書分析と江戸社会の復元的考察、人事情報の商品化のしくみと書物問屋・政權、徳川將軍家の文庫管理、維新政府の官版出版に関する研究がある。編著書『近世書籍文化論』（吉川弘文館、2006）、『江戸の武家名鑑』（吉川弘文館、2008）、『近世日記の世界』（共編、ミネルヴァ書房、2022）。

教授 ● 山本 和明

YAMAMOTO Kazuaki

十九世紀の日本文学、特に山東京伝や石川雅望の読本、加藤千蔭の和学、仮名垣魯文の草双紙などを対象に、作品構想やその出版をめぐる動向について幅広く研究を進めている。著書に『近世戯作の「近代」』（勉誠出版、2019）、『近世後期江戸小説論攷』（勉誠出版、2023）などがある。

教授 ● 渡部 泰明

WATANABE Yasuaki

古代後期から中世にかけての和歌文学を主たる研究領域としている。古代社会の産物である和歌が中世においてなぜ衰微することなく存在し続けたかについて考察してきた。近年は、和歌史全体を扱うよう心掛けていく。著書に『和歌とは何か』（岩波書店、2009）、『中世和歌史の研究 様式と方法』（岩波書店、2017）、『雲は美しいか 和歌と追想の力学』（平凡社、2023）などがある。

准教授 ● 太田 尚宏

OTA Naohiro

江戸幕府・諸藩において地域支配を直接担当した代官・地役人などが、いかに地域の実情を把握・勘案しながら行政課題を実現していったかを、江戸近郊地域や飛騨幕領・尾張藩領などの記録史料をもとに、支配システムと文書の作成・授受の關係などアーカイブズ学的観点からの分析も行いつつ研究する。著書『幕府代官伊奈氏と江戸近郊地域』（岩田書院、2010）参照。

准教授 ● 菊池 信彦

KIKUCHI Nobuhiko

専門は、デジタル（パブリック）ヒューマニティーズ（デジタル（パブリック）ヒストリー）。成果に、『デジタルヒストリーを実践する・データとしてのテキストを扱うためのビギナーズガイド』（大沼太兵衛との共訳、文学通信、2023年）、『19世紀スペインにおける連邦主義と歴史認識―フランシスコ・ピ・イ・マルガルの生涯とその思想―』（関西大学出版部、2022年）等。

授業科目一覧

授業科目	単位	担当教員
アーカイブズ学入門	2	教授 藤實 久美子
総合書物論	2	教授 木越 俊介
英語表現基礎演習	2	授業担当講師 (外部講師) 亀井ダイチアンドリュウ
高等表現能力演習	1	教授 齋藤 真麻理
資源研究演習	1	教授 中西 智子
研究基礎論1	2	教授 神作 研一ほか
研究基礎論2	2	教授 渡部 泰明ほか
書写文化論1	2	教授 岡崎 真紀子
出版文化論1	2	教授 木越 俊介
出版文化論2	2	教授 入口 敦志
資源集積論1	2	准教授 太田 尚宏
作品形成論1	2	教授 齋藤 真麻理
作品形成論2	2	教授 渡部 泰明
作品享受論1	2	教授 神作 研一
作品享受論2	2	准教授 多田 蔵人

授業科目	単位	担当教員
文学思想論1	2	教授 グワンティディエ
文学芸術論1	2	准教授 山本 嘉孝
文学芸術論2	2	教授 山本 和明
文学社会論1	2	教授 藤實 久美子
文学情報論1	2	授業担当講師 (外部講師) 相田 満
書物情報論1	2	准教授 栗原 悠
記録情報論1	2	准教授 菊池 信彦
記録情報論2	2	教授 西村 慎太郎

※担当教員が変更になる場合もあります。



文学社会論1



アーカイブズ学入門 (アーカイブズ・カレッジ)

准教授 ● 栗原 悠 KURIHARA Yutaka

1920年代から30年代の島崎藤村の社会思想の受容研究を端緒として、現在は近代文学に描かれた幕末から明治維新期の表象のあり方について研究を進めている。この時代は現代ではさまざまな文脈で近代の始まりの時期として半ば自明視されてしまっているが、小説をはじめとする文学作品における表象の分析を通じてそうした認識が、どのように広まっていたのかを考えていきたい。

准教授 ● 高尾 祐太 TAKAO Yuta

中世文学の基盤を為す知識の体系を明らかにすると同時に、その知的基盤に照らして文学作品のテクストを丁寧に読解する研究をしている。研究対象は、中世の和歌注釈・歌論・連歌論を中心とし、謡曲・軍記・説話をも射程に収め、それらの基盤として共有されている仏教・儒教・道教の三教（或いはそこに神道を加えて四教）一致的な知識体系を探究している。

准教授 ● 多田 蔵人 TADA Kurahito

永井荷風の江戸文化受容の研究から出発して、日本文学にあらわれた「引用」の意味を明らかにする研究を行っている。小説や詩などにおける「言葉の選び方」が端的に表れる「引用」の役割に着目することで、背後にある文化も視野に入れ、その作品のメッセージを探ることを試みている。主な著書に『永井荷風』（東京大学出版会、2017）、『荷風追想』（岩波書店、2020）など。

准教授 ● 山本 嘉孝 YAMAMOTO Yoshitaka

江戸時代・明治時代の日本漢詩文と漢籍の受容に関係する文化史を研究している。近世日本の社会における儒者や文人の生き方、及びそれが日本や東アジアの近代化に作用した過程を明らかにしたいと考えている。著書に『詩文と経世——幕府儒臣の十八世紀』（名古屋大学出版会、2021）がある。

特色ある授業

資源研究演習

本授業では、日本古典籍及び明治期文献についての総合的理解と研究方法の習得を目指す。表紙や料紙といった書物を構成する要素についての理解と分析手法の習得、写本や刊本の成立と伝来に関わる奥書・識語や刊記・奥付に記される情報の理解と分析手法の習得、蔵書印や出版文化の理解といった書物の流通に関わる知識の習得等、書誌学、文献学、蔵書史等に関わる複合的な視点から学ぶ。

【到達目標】

● 日本文学及びその関連資料の原典資料（古典籍等）の書誌学的事項についての基礎的な事柄について理解し、実際にデータを習得しそれを研究データとして処理することができるようになる。

研究基礎論

日本文学研究コースのすべての担当教員が前期・後期に分かれ、オムニバス形式で授業を担当する。最大の魅力は、日頃は接する機会の少ない領域の教員から親しく専門知識を学べる点にあり、多彩な講義内容は視野を広げるためのヒントに満ちている。

【到達目標】

● 文献、画像、記録史料に関する研究の現況及び課題について理解し、説明することができる。
● 本授業で学んだことがらを活かして、自分の考察対象とする資料料について、文献学または記録史料研究の中に位置づけ、説明することができる。

さまざまな学びと発表の場

研究指導や授業のほかにも、セミナーや講習会など、学びの機会が充実しています。さまざまな機会をとらえて自身の研究を深め、視野を広げることができます。



特別講義

● **特別講義**
本コースの学生の専門性を高めると同時に、広く深い教養と知識を身につけ先進的な日本文学研究を行う優秀な人材を育てるため、毎年、特別講義を開いています。特別講義では、日常の授業ではふれられない角度からテーマを設定し、カリキュラムにはない基本的、応用的、先進的な研究動向などについての講義を行います。個々の専門的なテーマに基づき、その分野でご活躍中のコース内外の研究者をお招きして講義をお願いしています。

● 総研大文化科学研究

総合研究大学院大学は、査読付き学術雑誌『総研大文化科学研究』を年一回刊行しています。広く国内外から論文等を募集し、文化科学全般について国際的に開かれた総合学術誌として高い評価を得ています。院生にとって身近な論文発表の機会となっています。専門分野にとらわれない学際的、総合的な視野に立つ論文も歓迎しています。



そのほかにも、国文学研究資料館主催の国際日本文学研究集会、日本古典籍セミナー、若手研究者を対象とした古典籍講習会などに参加することができます。詳細については17ページ、18ページをご覧ください。

入学者選抜試験について

◆求める学生像

- 日本文学研究コースは、次の点を兼ね備えた学生を求めます。
1. 日本文学とその周辺分野の研究に高い関心と強い意欲を有する人
 2. 文化資源を活用しながら研究を進めることと、専門的な調査技術と総合的な分析力・知識・技能等を修得することに意欲のある人
 3. 論理的な思考能力や文章表現力、独創的視点を有する人
 4. 新しい研究を目指して、独創的な視点を有する人
 5. 国際的・学術的に研究成果を発信する意志と熱意を持った人

◆入学者選抜の基本的な考え方

1. 第一次選抜（書類選考）においては、志望研究内容等、本コースが提出を求める資料に基づいて選考を行います。
2. 第二次選抜（論文審査・面接）においては、修士論文等の実証性・論理性・独創性等、基礎的な研究能力を重視し、かつ、論文内容・専門知識・研究計画等に関する口頭試問を通じて、研究者としての適性を判断します。

募集概要

募集人員
博士後期課程 2名程度

出願資格

- 本学に出願できる者は次のいずれかに該当する者となります。
- A 修士または専門職学位を有する者
B 修士または専門職学位に相当する外国の学校等の学位をもつ者
C 修士または専門職学位に相当する学力のある者

入学者選抜日程

出願資格認定 審査※ ₁	2025年11月4日(火)～ 2025年11月6日(木)
入学願書 受付期間	2025年12月4日(木)～ 2025年12月10日(水)
願書提出先：総合研究大学院大学 学務課学生係	
第一次選抜 (書類選考)	2025年12月中旬～1月中旬
第二次選抜※ ₂ (論文審査・面接)	2026年1月20日(木)実施予定 予備日：2026年1月30日(金)
合格発表	2026年2月中旬

※₁ Cのカテゴリーで出願しようとする方は、事前に出願資格認定審査を行います。
※₂ 詳細は第一次選抜合格者に対して通知します。

入学者状況

入学年度	志願者数	合格者数	入学者数
令和7年度入学	6	1	1
令和6年度入学	2	1	1
令和5年度入学	4	2	2
令和4年度入学	4	1	1
平成3年度入学	1	1	1

※特定のテーマに基づく科目等履修生・聴講生・研究生も受け入れています。詳しくは総研大ウェブサイトをご確認ください。

学生募集要項及び出願書類様式集の請求方法
学生募集要項は8月末に、PDF版をウェブサイトで公開予定です。出願にあたり出願書類様式集をお求めの方は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、入学を希望するコース（日本文学研究コース 博士後期課程）を明記のうえ、左記連絡先へ送信してください。
総合研究大学院大学 学務課学生係
メールアドレス gakusei@ml.soken.ac.jp

学位論文リスト

取得学位はすべて博士（文学）

合計 22 名（2025 年 4 月現在）

1. 課程博士

論文題目	氏名	取得年月	備考
切附本の研究 — 幕末明治期における 〈軍談・一代記〉読み 物の展開と様相—	伊藤 美幸	2025/3	
日本近現代文学に於ける 〈精神の両性具有〉 表象研究	小野 光絵	2022/9	
『愚管抄』の学問史的研究	児島 啓祐	2022/3	2022年4月 第1回説話・伝 承学会奨励賞 2022年3月 第8回 SOKENDAI 賞
橋守国絵本の研究 — 柏原屋の絵本出版活動と 橋守国の作画法を軸に—	古明地 樹	2022/3	2018年度全国 大学国語国 文学会第118回 大会研究発表 奨励賞
院政期和歌史の研究 — 藤原師実・師通父子 を中心に—	花上 和広	2021/3	
香道と文学 — 江戸中期の香道伝書による 文学受容の研究—	武居 雅子	2017/3	
中・近世語り物の形成と 享受に関する研究	桑 汐里	2016/9	2017年9月綜 合研究大学院 大学研究賞
『徒然草』の漢籍受容と 漢訳・継承	黄 昱	2016/3	2015年4月 第1回総研大 未来科学者賞 2016年9月 第21回長倉研 究奨励賞
建部綾足の研究 和学と和文体読本	紅林 健志	2015/3	
近世前期における古浄 瑠璃・説経本文の研究	林 真人	2015/3	
橘曙覧の研究 — 漢詩の摂取を中心に—	王 暁瑞	2014/3	
林家の漢詩文と近世前 期の俳諧	陳 可冉	2012/3	2013年6月 第22回柿衛賞 SAA (SOKENDAI Alumni Ambassador)
枕草子における漢文学 受容の可能性	張 培華	2012/3	
近世前期朝廷とその周 縁の文事 — 後陽成天皇八宮良純 入道親王を軸として—	大内 瑞恵	2011/3	
近代文学成立期における山 田美妙についての研究	大橋 崇行	2011/3	2014年度全 国大学国語 文学会文学・ 語学賞受賞 2020年6月 双葉文庫ルー キー大賞

論文題目	氏名	取得年月	備考
中世前期における和歌 表現の研究 — 新古今表現への道筋—	大野 順子	2011/3	
「異国合戦軍記」の研究 — 朝鮮軍記物とその周辺—	金 時徳	2010/3	2015年東方 文学比較研 究会第5回 石軒学術賞
上方和学研究	一戸 渉	2010/3	2013年9月 第6回日本古 典文学学術賞
令子内親王家の文芸活動 — 院政前期の内親王と その周辺—	高野瀬 恵子	2009/3	
平安後期僧侶文化圏の研究	七田 麻美子	2009/3	
「淋敷座之慰」の研究 — 近世前期歌謡とその周辺—	中島 次郎	2007/9	
源氏物語 鎌倉期本文 の研究	大内 英範	2007/3	

2. 論文博士

合計 14 名（2025 年 4 月現在）

論文題目	氏名	取得年月	備考
書物「発見」の文化的考察	飯野 勝則	2024/9	
近世中後期における〈知〉 の伝播に関する研究 — 歌壇・文事・蔵書—	中川 豊	2022/9	
元禄浮世草子の研究	藤川 雅恵	2021/9	
一九〇〇年前後の地方 青年における文筆活動 の研究 — 文章回覧誌を中心に—	木戸 雄一	2021/3	
俳文芸史攷	塩崎 俊彦	2019/3	
藤原教長の口伝『才葉 抄』の研究	金子 馨	2019/3	
越前朝倉文化の研究	宮永 一美	2018/3	
明治開化期小説の研究 — 仮名遣魯文と近世戯作—	山本 和明	2017/3	
芥川龍之介文学におけ るモダニズムの諸相	高橋 龍夫	2017/3	
万葉集伝本の研究	田中 大士	2015/3	
一九二〇年代から三〇 年代の前衛詩運動と満 州における日本語文学の 研究	小泉 京美	2015/3	
西鶴小説新論 — 東アジアへの視界—	染谷 智幸	2013/3	
江戸狂歌壇史の研究	石川 了	2010/3	
中古中世散佚歌集研究	久保木 秀夫	2008/3	

学位の取得について

1 修了要件

日本文学研究コースを修了するためには、以下の要件を満たさなければなりません。

- 本コースに3年以上在学すること。
- 履修規程に定める所定の単位数以上を修得すること。
- 指導教員から必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。

日本文学研究コースを修了すると、博士（文学）の学位が取得できます。

2 博士論文指導

学位取得のためには、博士論文審査に合格することが必要です。博士論文審査を受けるためには、所定の研究指導の段階を経て、博士論文指導を受けた上で、審査への出願を行う必要があります。

日本文学研究コースでは、研究指導を2段階で行っており、それぞれの段階における中間報告論文の審査を経て博士論文指導に進むことになります。

十分な博士論文指導を受けた上で、博士論文審査を受け、合格した場合に学位が授与されることとなります。

3 学位取得までの主な流れ



修了生の進路

青山学院大学ヒューマンインノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湖北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、兵庫教育大学、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育等

SOKENDAI 賞

本学において、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめ、学位を取得した学生に贈られます。

在学生の声

宮本 しえりさん

2025年4月入学

私は、専修免許状を取得するために、学部を卒業後、そのまま同じ大学の大学院修士課程へと進みました。修士課程に在籍して学ぶなかで、さらに深く明治期の幸田露伴について研究をしたいと思うようになり、博士課程進学を志しました。しかし、学部生のときから指導をいただきたいとた先生が2025年度をもって定年退職をされるということで、その先生のご助言もあり外部進学を考えるようになってきました。

総合研究大学院大学に進学を決めた理由は大きく二つあります。一つは、総研大にご指導いただきたい先生がいらっしゃったこと。もう一つは、入試説明会に参加し、研究環境の面で様々なサポートがあることを知り、研究の環境が充実していると感激したことです。特に、国文学研究資料館が基盤機関となっているため膨大な史料を研究に活用できるという点は私にとって本当に魅力的に感じました。

私はこれまで、近代文学の中でも特に明治期の作家である幸田露伴を研究の対象としてきました。幸田露伴は長い作家生活の途中、「天つと浪」という作品の執筆中絶を境に小説から史伝や考証、随筆などの方面へと文筆活動の重心を移しましたが、その萌芽を前期作品「天つと浪」中絶以前の作品）にみる事ができるのか、という内容がこれまでの研究テーマです。総研大進学後は、幸田露伴の史伝や考証・重心を移したあとと随筆に数多く接し、小説中心の近代文学史の間直しや、近世文学との接続を考える実証研究を進めていきたいです。さらに、幸田露伴だけでなく明治期の作家・作品を幅広く研究していければと思っています。

エスカワ エキヤニ
ホセ マヌエルさん

2024年4月入学

本コースに入学して一年、非常に充実した時間を過ごしました。入学直後には、葉山キャンパスで開催されたフレッシュマンコースに参加し、理系・文系を問わず、他コースの新入生とともに研究倫理や方法論を学び、学際的な交流も深めることができて有意義な始まりとなりました。

在学一年目は、全国各地の大学図書館や資料館を訪ね、江戸時代の漂流記に関する資料を調査しました。なかでも、1844年に成立した『亜墨新話』という写本の伝播について調査結果を整理・分析し、指導教員の助言を受けながら着実に研究を進めることができました。また、授業にも積極的に参加しました。総研大担当教員がオムニバス形式で行った「研究基礎論」では、中世から近代まで和歌・漢詩・歴史・書誌学、資料保存など多様な分野に関する講義を受け、その場での質疑も貴重な学びとなりました。論文指導である「先端学術院特別研究山・日」では、漢詩の分析を通して資料読解の基礎力を磨きました。「文学社会論」「出版文化論2」では、江戸時代の出版文化について実物資料に触れながら深く学び、研究者の視野が広がりました。

日本語母語話者でない私にとって大きな挑戦であった中間報告論文発表会での発表は、学生チューターの支援を得て無事やり遂げることができました。先生方や先輩方からのご指導は、今後の研究の方向性を見定める上で非常に有益でした。

在学二年目からは漂流記の研究をさらに掘り下げ、資料の伝播と本文の構造に注目しながら、江戸時代の異文化受容の実態により迫っていきたくと考えています。



新入生懇談会の様子

学位取得者からのメッセージ

小野 光絵さん

2022年9月修了(課程博士)

本専攻の院生としては私の研究内容は少し異質だったため、進学を考えている方にはあまり参考にならないかも知れませんが、主な研究対象は尾崎翠、島田由美子、中井英夫などの、幻想性の強い日本近現代文学です。人が生身の人間として生きる、自分自身の中からほれ落ちてしまう理想の在り方がいかに語られているかという点のありよう強い関心を持ってきました。博士論文は、「日本近現代文学における精神の両性具有と家研究」という題目のもと執筆しました。

本専攻を志す決めた手となったのは、時には講義がマンツーマンになることも珍しくない、ごく少数人数での指導環境です。単に学生数が少ないだけでなく、学生数に対して先生が大勢を擁されているという点が本専攻の大きな特徴の一つです。2022年時点での先生数が約20名という、国立大学法人としては最大規模の国文学研究科となっております。だからこそ、一人の学生につき指導教員の先生が三人という「信じられないほど手厚い体制が実現されています。広々とした机に一台のノートパソコンが貸与とされている院生室に象徴されるように、一人の学生が大切にされています。博士後期課程への進学先を迷っていた際、当時在籍していた大学院でお世話になっていた先生に勧められていたことが契機となり、入学説明会へ出席を経て受験を決めました。

学位取得までに苦労した点は少なくありませんが、一番の悩みは研究対象の絞り込みと研究テーマの設定でした。私が強い関心を持っている作家のテキストはどれも観念性が高く、だから、具体的なテキスト分析と、それを背後で支える実証的なアプローチとのバランスも苦戦しました。私に欠けていた月念な研究に重きを置く本専攻の風土から、豊かに資料が揃っていた多くを学びました。ここまで研究を続けてこれたのは、指導教員の先生の忍耐強い指導のおかげに他なりません。

日本文学研究コースが気になられている方は是非、入学説明会への参加をお勧めします。

伊藤 美幸さん

2025年3月修了(課程博士)

進学のきっかけ

私は学部・修士課程を芸術学専攻で過ごし、博士課程からは自身の研究と関わりが深い日本文学専攻への進学を決めました。このもと、実物資料の近くで学びたいという思いが強かったことで、豊富な古典籍を閲覧できる国文学研究資料館の環境で学べたことは、私にとって非常に意味のある時間となりました。また、学生数が少ないので、講義や研究指導は「対一」で行うことが多く、手厚いご指導をいただいたことが大きなありがたみを感じております。

充実した国文学研究資料館の環境

私は切附本（稀末明治期に出版された中本書型の読み物で、題材は一代記・軍談・敵討等）を研究していますが、自身の研究対象だけではなく、同時期に制作された出版物を多く見ることで研究を進める上で非常に重要となります。膨大な資料を所蔵する国文学研究資料館の環境で、江戸後期から明治二十一年頃に制作された版本や写本などを多数閲覧することができ、資料に対する洞察力や感性が着実に養われました。また、誠実に資料の向き合ふことで、研究の一手を踏み出すべき方向性や手応えを得られたことは、国文研に在籍していただければ得られないものでした。

学位取得までに苦労した点

これまでの投稿論文を単純に並べただけでは博士論文にはなりません。博士論文全体の一貫性を意識しながら、各章の研究目的、意義、方法・主張などが適切かどうかを見極めるのが難しかったです。また、表記揺れの修正をはじめ、図版や表の調整をといった細かい作業も多く、手間と時間がかかりました。

学位取得を目指す方へ

時間はあつという間に過ぎていくので、学位取得に向けて早めに執筆を始め、計画的に進められるように思います。また、国文学研究資料館が所蔵する膨大な資料や研究データを大いに活用してください。

飯野 勝則さん

2024年9月学位取得(論文博士)

私にとっての博士論文

私が博士論文で取り組んだ研究は、江戸期から現代にいたるまでの本邦の夫々が、書物や文獻を見出すために講じてきた手段や、それらに「思想」について分析を行い、文化史の視点から考察するというものでした。具体的には、江戸期に出現した本邦の類標や類句と称される索引、明治期から昭和期の「国歌大観」をめぐる動向、そして昨今のデジタルヘルスなどを対象として取りあげました。私は二十年以上、大学図書館に勤務しており、くくこの十年ほどは、実務を通じて、これら検索ツールに関する研究を継続して行っています。言わねば、私の博士論文は、その延長としての研究成果をまとめたものということになるかと思えます。

日本文学研究コースと論博士

二十年代頃、諸事情から博士課程への進学を断念し出人人として、博士の学位を取得することは、ある意味悲願でもありました。ですが、地方に在住し、家庭を有する社会人として、改めて博士課程へ進学することは、制約すべきことが多く、敷居が高いものです。そのようななかで、論文博士の道筋を用意している日本文学研究コースの存在は、一筋の光明でありました。私と似た境遇にあり、国文学で博士の学位取得を志す方であれば、おそらく同様の感慨を抱かれるのではないのでしょうか。

振り返りについて

社会人としての博士論文の執筆は時間の確保に苦労しました。時に孤独にいなまれ、困難を感じることもありました。ようやく描きだした目録試問では、先生方より、多様な問題意識を醸し出すことが、また此れを頂戴しましたが、いずれも研究内容の改善に資する内容ばかりで、大変にありがたかったです。学位授与の通知を頂いた際の喜びは脳裏に鮮明に焼き付いています。改めて思えば、これは学術的に濃密かつ貴重な体験ができたのも、本気で学位取得を志したからに他なりません。博士の学位を得た方には、ぜひとも勇気を以て挑戦していただければと思います。

総合研究大学院大学について

創設の趣旨

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等との緊密な連携及び協力の下に、世界最高水準の国際的な大学院大学として学術の理論及び応用を教育研究して、文化の創造と発展に貢献することを理念に、1988年に我が国最初の独立大学院大学として創設されました。

総研大の最大の特徴は、大学共同利用機関等の世界トップレベルの研究環境を教育の場としている点にあります。

大学共同利用機関は、個々の大学では整備できない大規模な施設・設備、大量のデータや貴重な資料等の研究資源を全国の大学の研究者に提供するとともに、国内外の研究者との多彩な共同研究を通じて、我が国の先端学術を牽引する研究拠点の役割を担っています。

総研大は、そのような基盤機関の優れた研究環境において、各研究分野の豊富な研究者集団を教授陣とし、高度な専門教育を提供します。

自立した研究者の育成

総研大は、「自立した研究者」として必要な、5つの力量を備えた博士人材の育成を行います。

◆専門力

自らが専門とする学術領域に蓄積された知見と方法論を修得し、それらを活用して高度な研究を推進することができます。

◆獨創性

自らの専門性に立脚しつつ、学際的な視点から周辺領域の課題に取組み、幅広い学術の進展に資することができます。

◆学際性

研究を通して事象を深く理解し、自由な着想に基づいて未踏の課題に挑戦し、新たな知的価値を生み出すことができます。

◆国際力

自らが行う学術研究の社会的な意義や位置づけを認識し、研究者としての倫理観と責任感を持って行動することができます。

◆倫理性

国・地域・言語・文化・性別・宗教などに捉われない理解と協働に基づき、高い普遍性をもつ学術成果を発信することができます。

先端学術院について

総研大は、世界最先端の研究拠点を教育の現場として、高い専門性を持った博士人材を育成してきました。

一方で、刻々と変化する学術分野の動向や社会の要請を踏まえ、複合的・融合的な課題に取り組む博士人材を育成していくには、高度に専門的なリソースをより分野を超えて柔軟に活用できる体制が必要です。

そのため、総研大はこれまでの教育体制を見直し、2023年4月1日、先端学術院を設置しました。同時に、新たに国立国語研究所及び総合地球環境学研究所を、本学の基盤機関に迎え、教育環境の更なる充実を図りました。

先端学術院では、基盤機関に支えられた20コースが設置されます。これにより、学問分野の垣根を超え、基盤機関の多彩な教育リソースを全学でより柔軟に活用できる教育環境を提供します。

よくある質問

Q1 他大学の文学研究科と比べてどのような特徴がありますか。

最大の特徴は、大学共同利用機関である国文学研究資料館を基盤機関とした、博士課程後期のみ大学院である点です。国文学研究資料館は国内外の研究者が集うトップレベルの研究機関で、重要文化財をはじめとする膨大な研究資源と、国内外の充実した研究ネットワークを有しています。本コースではそれらを縦横に活用し、最先端の研究に触れながら、深い専門知識と総合的な分析力を修得できます。なお、総合研究大学院大学はすべての大学共同利用機関を基盤機関としているので、他コースの授業も受講でき、視野を広げるのに最適な環境といえるでしょう。

Q2 3年で学位を取得するのは難しいですか。

3年で学位を取得することは可能ですが、堅実な計画性と地道な努力が必要です。学位の取得はゴールではなく、その後の研究者人生への第一歩です。基礎学力と柔軟な思考力を身に付け、研究力を養うことが肝要です。

Q3 授業料免除などの支援制度はありますか。

各学生の経済状況に応じて、授業料の免除制度、日本学生支援機構による奨学金の他、各種奨学金制度を活用できます。また、大学院に関連する業務を行いながら給与を得ることができる「リサーチアシスタント制度」や、

研究費の措置があり、授業料の負担軽減と研究のスムーズな遂行を支援しています。

Q4 受験する前に希望する指導教員を決めておく必要がありますか。

必ず決めておく必要はありませんが、出願前に指導を受けた教員に連絡し、入学後の研究などについて相談することをお勧めします。また、毎年秋に入試説明会を実施しますので、是非、参加してみてください。

Q5 留学生を受け入れていますか。

4月入学の一般入試を受けていただくこととなります。また、研究生等の制度もあります。詳細については、総合研究大学院大学ウェブサイトを御覧ください。これまで正規生として受け入れた留学生は全員学位を取得しています。

Q6 仕事をしながら学位を取得することは可能ですか。

可能です。これまでも本コースに学んで学位を取得し、活躍している社会人学生がいます。本コースでは、仕事と研究の両立を目指す学生に対して細やかな支援を行います。ただし、勤務先との調整は必要となりますので、事前に相談してください。

Q7 最大何年まで在学可能ですか。

修業年限は3年を標準としますが、最大5年まで在学が可能です。また、在学期間とは別に最大2年まで休学が可能です。なお、総

合研究大学院大学には、仕事、家事、育児、介護など、さまざまな事情がある方について標準の修業年限を超えた期間で計画的に課程を履修することを認める「長期履修制度」があります。長期履修制度についての詳細は国文学研究資料館 管理部総務課 研究協力・教育支援係 (edu-mil@niji.ac.jp) にお問い合わせください。

Q8 課程を単位取得退学したのちでも、審査を受けて課程博士の学位を取得することはできますか。

単位取得退学後に博士論文を提出し、退学から3年以内に審査に合格した場合、課程博士として扱われます。

Q9 在学中に指導教員が変わることはありますか。

指導教員の転出などにより、指導教員を変更することがありますが、博士論文の執筆に支障が出ないよう、十分に配慮しています。

Q10 修了後、国文学研究資料館で研究を続けることは可能ですか。

「博士研究員」の制度があります。無給ですが、国文学研究資料館の施設を使用して研究を継続できます。博士の学位を取得後、5年を経過していない者、常勤の職に就いていない者、国文学研究資料館の研究・事業関連の諸行事に協力できる者などが対象です。

国文学研究資料館の概要

◆基幹事業について

日本文学及びそれに関連する諸資料を調査・収集し、データベースとして整備公開するなど、その保存と利用を推進しています。とくに古典籍の画像化は、次項に示したプロジェクト事業とともに文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の継承に大きな貢献を果たしています。研究成果は講演会、展示及び刊行物等により、公開しています。

①調査および画像作成

全国の大学等の研究者と連携し、古典籍及び近代文献、歴史資料の調査研究を行っています。また、各地の図書館・文庫等に所蔵される原典資料をデジタル画像として撮影し国書データベースにより一般に公開しています。これまでに収集してきたマイクロフィルムのデジタル化も進めています。

②資料利用

当館の図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度や直接申込により、資料の複写等のサービスが利用できます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。

③日本の古典文化の発信

日本の古典文化とそれに関わる研究成果を社会に還元するため、講座や展示を開催しています。

④古典籍講習会

図書館員や若手研究者を対象に、日本古典籍及び書誌学の基礎知識などの修得を目的とした研修を行っています。過去の講習会テキストは国文学研究資料館の教員です。過去の講習会テキストは学術情報リポジトリから公開されています。

⑤アーカイブズ・カレッジ

近年、アーカイブズ（公文書や古文書等）の重要性に対する認識が高まり、アーキビストの養成が急務となっています。当館では、このような動きに応えるべく、アーカイブズ・カレッジを実施し、最新の専門的知識、技能の普及に努めています。



国際日本文学研究集会

◆プロジェクト・共同研究事業について

①データ駆動による課題解決型人文学の創成
— データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究所の開拓 —

本プロジェクトでは、国内外機関等との連携による更なる画像データの拡充、画像データのAI活用等によるテキストデータ化、データ分析技術開発の推進等、日本文学を中心とするデータインフラを構築し、様々な課題意識に基づく国内外、異分野の研究者との共同による大規模データを活用した次世代型人文学研究所を開拓することを目指しています。

②共同研究

日本文学研究の新たな方向性の創出と、研究交流推進のため、多くの若手研究者を迎えて、次の共同研究を実施しています。

《基幹研究、特定研究》

資料の調査研究と国内外の諸機関との研究交流に基づき、日本文学等の基礎研究と国際研究の新たな展開を図る共同研究

《国文研プロジェクト型共同研究》

大規模データを活用した次世代型人文学研究所を開拓する前述のプロジェクト趣旨に則した共同研究

◆国際交流事業と若手育成

①国際日本文学研究集会・日本古典籍セミナー
日本の文学は世界中で研究されており、多様な研究の視野と手法の共有は、日本文学研究にとって大切な課題です。そのため、国際連携部では、国文学研究資料館創立以来、毎年開催している「国

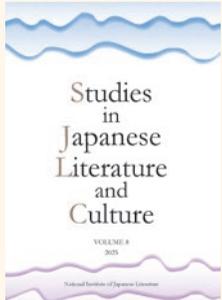
際日本文学研究集会」をはじめ、海外諸機関と連携した「日本古典籍セミナー」や研究会、シンポジウム開催など、活発な国際交流活動を展開し、その活動を通じて国内外の若手研究者の育成にも取り組んでいます。

このうち「国際日本文学研究集会」の発表者は、研究発表だけでなく、『国文学研究資料館紀要』文学研究篇への投稿資格が与えられます（審査あり）。

また、日本文学及び日本語の歴史的典籍に関する幅広い分野の英語での論文を掲載するオンラインジャーナル『Studies in Japanese Literature and Culture』では、広く投稿を受け入れています（査読あり）。

②特別共同利用研究員制度

日本国内の大学院生を特別共同利用研究員として受け入れ、研究指導を行っています。



Studies in Japanese Literature and Culture

◆古典籍文化の活用と社会連携

①ないじえる芸術共創ラボ

— アートと翻訳による日本文学探案イニシアティブ「ないじえる」 — とは当館の英語表記の略称であるNIJLによる命名です。アーティストや、日本語を母国語としない翻訳家に当館の豊富な古典籍に触れていただき、研究者とのワークショップを通して、古典籍の新たな魅力の発見と、文化芸術的価値の創造を試みるものです。様々な活動をSNSやWEBサイトから発信し、ラボで起る様々な化学反応を広く伝えていきます。

②ぶらっくこくぶんけん

国文学研究資料館が位置する多摩地域における学術・文化の発展を目的として、企業、自治体、大学等の各種団体が構成するプラットフォーム「ぶらっくこくぶんけん」を設立し、講演会やデータベースを活用した各団体との連携協力を行っています。



国文学研究資料館外観

表紙等画像：国文学研究資料館蔵「百さへつり」<https://doi.org/10.20730/200010653>
版元 馬屋重三郎